

# 会員各位

## 地域医療機関の先生方へ

### 腎臓専門医によるオンライン診療補助開始のご案内

謹啓

先生に於かれましては益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

この度、大阪急性期・総合医療センター腎臓・高血圧内科ではオンライン診療補助による腎疾患専門診療を開始いたします。ぜひご利用いただきますようお願い申し上げます。

ご存じのように、国民成人の8人に1人が慢性腎臓病（CKD）であり、毎年約4万人のCKD患者さんが末期腎不全から透析が必要な状態に陥っています。そのうち約50%は慢性糸球体腎炎と動脈硬化性腎障害を原疾患としており、検尿異常に対する精査や治療、薬物療法や食事療法の組み合わせなど適切な専門的介入により、ほとんどの場合透析導入は阻止できるのですが、残念ながらすべての患者さんに適切な専門的介入がなされていないのが現状です。その理由の一つとして、臨床経験が豊富な腎臓専門医の数が少ないこと、加えてCKD患者さんは高齢で合併症を有する頻度が高いため、遠方の腎疾患専門医療機関への受診が困難であることがあげられます。実際、一部の医療機関あるいは患者さん自身からは、当センターへのアクセスが不便であるという理由で、当科への受診が困難であるとのことをご意見を伺っております。一方、多くのCKD患者さんの病態は慢性であり、必ずしも腎臓病専門医療機関での対面診療の必要がなく、かかりつけ医の診療情報や検査結果さらには画像検査などから、診断ならびに治療方針を決定することができます。

そこでこの度、腎臓・高血圧内科ではオンライン診療を利用したオンライン診療補助（所謂 Doctor to Patient with Doctor）を開始することといたしました。患者様は初診時であっても当センターに受診することなく、先生方の診察室で当科とのオンライン診療（Doctor to Patient）を行うものであり、先生方が診療に参加（with Doctor）していただくことにより、より高度な医療連携が可能となり、利便性も向上することが期待されます。もちろん、オンライン診療のみでCKD診療が完結できるわけではなく、必要に応じて対面診療を組み合わせることもあります。CKD診療の地域連携におけるこのような取り組みは全国でもほとんど例がなく、最初は実証実験的要素を含みますが、有用性が証明されれば、患者さんの腎機能ならびに生命予後の改善に大きく寄与することが期待されます。

また、COVID-19パンデミックを経験したことから、大規模災害や新興感染症パンデミックに対応した新たな医療提供体制を構築する意味において、オンライン診療は非常に重要なツールとなると考えられます。

なお、この度のオンライン診療補助は保険診療として認められた診療形態ではありませんので（当科に診療報酬は発生しません）、あくまでも実証実験的に臨床試験として実施させていただきます。ですので、研究計画書ならびに同意説明文書も準備しております。地域医療機関の先生方におかれましては、何卒ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

謹白

令和5年7月吉日

大阪急性期・総合医療センター

オンライン診療補助担当医の紹介

大阪急性期・総合医療センター  
副院長兼医務局長  
腎臓・高血圧内科 林 晃正



【略歴】

大阪市東住吉区出身、大阪府立天王寺高校卒業。

1989年大阪大学医学部を卒業後、1991年から大阪府立病院（現在の大阪急性期・総合医療センター）腎臓内科に勤務。

2000年りんくう総合医療センターに異動し、2003年腎臓内科を立ち上げる。

2011年からは大阪急性期・総合医療センター腎臓・高血圧内科に戻り、2020年から現職。

30年以上の臨床現場での診療経験のみならず、これまで多数の臨床研究や治験を実施しており、診療ガイドライン（日本透析医学会の腎性貧血ガイドライン、急性腎障害ガイドライン）作成にも参画。

【参考資料】

・最近の主な論文

1) Early nephrology referral 6 months before dialysis initiation can reduce early death but does not improve long-term cardiovascular outcome on dialysis.

Terumasa Hayashi, et al. Circ J 2016; 80: 1008–1016

2) Prognostic significance of asymptomatic brain natriuretic peptide elevation at nephrology referral in patients with chronic kidney disease.

Terumasa Hayashi, et al. Am J Nephrol 2018; 48: 205–213

3) Effect of maintenance hemoglobin level on renal outcome in non-dialysis chronic kidney disease (CKD) patients receiving epoetin beta pegol: MIRCERA clinical evidence on renal survival in CKD patients with renal anemia (MIRACLE-CKD Study).

Terumasa Hayashi, et al. Clin Exp Nephrol 2019; 23: 349–361

5) Initial responsiveness to darbepoetin alfa and its contributing factors in non-dialysis chronic kidney disease patients in Japan.

Terumasa Hayashi, et al. Clin Exp Nephrol 2021; 25: 110-119

6) Renal prognoses by different target hemoglobin levels achieved by epoetin beta pegol dosing to chronic kidney disease patients with hyporesponsive anemia to erythropoiesis-stimulating agent: a multicenter open-label randomized controlled study.

Kazuhiko Tsuruya, Terumasa Hayashi, et al. RADIANCE-CKD Study Investigators. Clin Exp Nephrol 2021; 25: 456-466,

7) Hyporesponsiveness to erythropoiesis-stimulating agent in non-dialysis-dependent CKD patients: The BRIGHTEN study

Ichiei Narita, Terumasa Hayashi, et al. PLoS ONE 2022; 17: e0277921.

8) Referral pattern to nephrologist and prognosis in diabetic kidney disease patients: single center retrospective cohort study.

Yukimasa Iwata, Terumasa Hayashi, et al. PLoS ONE 2023; 18: e0282163.

・最近の治験

1) ダバグリフロジン：CKD

2) フィネレノン：糖尿病性腎臓病 HIF-PH 阻害薬（ダプロデュスタット、エナロデュスタット、モリデュスタット）：腎性貧血

4) アトラセンタン（エンドセリン拮抗薬）：IgA 腎症

5) LNP023（補体 B 因子阻害薬）：IgA 腎症

6) AZD5718（ロイコトエリン産生抑制薬）：CKD

7) MEDI3506（抗 IL33 モノクロナール抗体）：糖尿病性腎臓病

8) BI685509（可溶性グアニル酸シクラーゼ活性化薬）：糖尿病性腎臓病

9) バルドキシロン（Nrf2 活性化薬）：糖尿病性腎臓病

### オンライン診療補助の流れ

- ① 当科の診察を希望される患者様に、従来のように当センターに受診していただき腎臓専門医による対面診療を受けていただく以外に、オンライン診療補助という新しい診療形態の利用が可能であることをご説明下さい。オンライン診療補助を希望された患者様については、オンライン診療補助計画書を用いて説明し同意を取得して下さい。
- ② オンライン診療補助は保険診療ではないため、臨床研究として実施すること、したがって患者さんのデータを匿名化して研究に使用することの同意を取得して下さい。ただし、各医療機関では簡単な説明で結構です。正式な説明は初回のオンライン診療補助時に実施させていただきます。
- ③ 患者スマートフォンに、オンライン診療アプリ (CLINICS)をインストールします。
- ④ 腎臓・高血圧内科オンライン診療補助予約依頼専用用紙に必要事項を記入し、当センターに FAX していただきます。
- ⑤ 当科にてオンライン診療補助の予約日時を確定し、各医療機関にオンライン診療補助予約確定票を FAX させていただきます。同時に患者様には SMS で予約日時を連絡させていただきます。
- ⑥ 予約日時になりましたら患者様と診察室で待機しておいて下さい。患者様のスマートフォンにオンライン診療補助開始の呼び出しをさせていただきます。

### 重要事項

- ① オンライン診療補助開始日までに、血液検査ならびに尿検査の結果を従来のように、地域医療連携センターまで FAX して下さい。
- ② 腎機能低下の鑑別診断には腎臓超音波が必須ですので、可能な限りご用意ください。オンライン診療補助当日に各医療機関で腎臓超音波を実施いただいても結構です。その画像をアプリで供覧して下さい。

### オンライン診療補助予約枠

(地域医療機関の先生方のご意見により今後変更することがあります)

	月	火	水	木	金(第1・2のみ)
13:00-13:30	1 枠	1 枠			1 枠
13:30-14:00	1 枠	1 枠			1 枠

## 腎臓・高血圧内科オンライン診療補助依頼 専用申し込み書

年 月 日

紹介元医療機関の名称および所在地	電話番号*	
	FAX番号	
医師名	* 通信に問題が発生した場合に、医師に直接連絡ができる番号	

ふりがな**	旧姓	性別	男 ・ 女
患者氏名	( )	電話番号	
患者住所	〒	携帯電話	
生年月日	大・昭・平・令 年 月 日 ( 歳)		
当センターへの来院歴	<input type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし		** 必ず記入ください

受診希望日	第一希望	年 月 日 ( )	<input type="checkbox"/> 13:00~13:30	<input type="checkbox"/> 13:30~14:00
	第二希望	年 月 日 ( )	<input type="checkbox"/> 13:00~13:30	<input type="checkbox"/> 13:30~14:00
	第三希望	年 月 日 ( )	<input type="checkbox"/> 13:00~13:30	<input type="checkbox"/> 13:30~14:00
傷病名				
相談内容				

## オンライン診療補助申し込みの際のチェックリスト

- 患者様にオンライン診療補助は保険診療ではなく、将来の保険収載のための臨床研究であることをご説明いただき、臨床研究「慢性腎臓病患者ならびにかかりつけ医に対するオンライン診療補助が地域における慢性腎臓病診療ならびに患者予後に及ぼす影響についての検討」の内容を理解されている（初回のオンライン診療時に同意書に署名を頂きます）
- 患者様にオンライン診療補助計画書に基づいて説明し、同意書に署名を頂いている
- 患者様のスマートフォンにオンライン診療アプリ「CLINICS」がインストールされている

上記のチェックがない場合、予約をおとりすることができません。

腎臓・高血圧内科オンライン診療補助予約票

テスト大学病院

御中

医師名： 担当医 先生

ご紹介いただきました患者様のオンライン診療補助の  
予約につきましては、下記のとおりとなっています。

オオサカテスト タロウ

大阪テスト 太郎様

( 1964年 4月 1日生 59歳 男性 ID: 90000001 )

担当医師： 林 晃正

予約日時： \_\_\_\_\_

必ず、患者様のスマートフォンにオンライン診療アプリ  
『CLINICS』がインストール済みであることをご確認ください。

■受診日当日 医療機関ならびに患者様へのお願い

- ・ 予約日時には、患者様は必ずかかりつけ医の診察室で待機をお願い致します。
- ・ 患者様のスマートフォンに腎臓・高血圧内科担当医師から呼び出しを致します。
- ・ 患者様の本人確認が必要です。免許証等をご用意ください。

大阪急性期・総合医療センター  
地域医療連携センター

代表電話：06-6692-1201 (内線2173)  
直通電話：06-6606-7014

## オンライン診療補助実施にかかる基本的な考え方

- 初診はかかりつけ医の医療機関にて、かかりつけ医同席の下でオンライン診療補助を行います。
- オンライン診療補助が適切でないと判断した場合、対面診療に切り替えることがあります。
- オンライン診療補助は得られる情報が限られているため、再診の場合には必要に応じて対面診療が必要となります。
- オンライン診療補助は、その利点と生じる恐れのある不利益などについて理解した上で、患者様が求める場合に実施するものです。

上記の項目に加え、以下のオンライン診療補助計画書をよくご確認ください、オンライン診療補助の実施に同意される場合、別紙同意書の署名欄にご署名下さい。

## オンライン診療補助計画書

オンライン診療補助の方法	かかりつけ医にてかかりつけ医の同席のもとで実施
疾患名および日時(期間)	疾患名：慢性腎臓病 診療日時 20 年 月 日 時 分～ 時 分
オンライン診療補助と対面診療の組み合わせに関する事項	初診はオンライン診療補助 再診が必要な場合、状況に応じて対面診療を行う
予約の方法・診療時間に関する事項	当センター予約システムを用いて、従来通り予約を行う 予約が確定すれば、予約確定票を医療機関に FAX すると同時に、オンライン診療専用ソフト(患者スマートフォンにインストール)に予約日時を送信する(SMS) 患者からの直接の予約入力はない
オンライン診療補助の方法・使用する機器	患者側：スマートフォン・タブレット・パソコン 医療側：医療機関のパソコン等の情報通信機器(電子カルテシステムとは別)、診察内容は電子カルテに記載 オンライン診療システム：MEDLEY社の「CLINICS」を使用
オンライン診療補助が実施できない条件	患者の心身の状態について十分な情報が得られないと判断した場合 急激な腎機能低下を認める場合 緊急で血液検査等必要と判断される場合 急性疾患が疑われる場合
患者の情報伝達への協力	オンライン診療補助の実施に際し、患者は診療に対して積極的に協力し、自身の心身に関する情報を医師に伝達する必要がある

急変時の対応方針	原則、当センターで責任をもって対応
複数の医師がオンライン診療補助を行う予定	なし
情報漏洩等のリスクを踏まえたセキュリティに関する責任	<p>・ <u>想定されるセキュリティ・リスク</u> 医療機関およびオンライン診療システム提供事業者に対するサイバー攻撃等による患者の個人情報の漏洩・改ざん等</p> <p>・ <u>医療機関及びオンライン診療システム事業者に課される事項</u> オンライン診療の適切な実施に関する指針に定める情報セキュリティに関するルールを遵守したシステムを構築し、常にその状態に保つこと</p> <p>・ <u>医師に課される事項</u> セキュリティ・リスクを十分に勘案したうえで、オンライン診療システムを選択すること 患者及び医師がシステムを利用する際の権利・義務・リスク等を明示し、かつ情報漏洩等のセキュリティ・リスク・医師・患者双方のセキュリティ対策の内容、患者への影響等について、平易に説明できるオンライン診療システム提供事業者を選択すること 患者の行為によってセキュリティを脅かす事案や損害等が生じた場合、直接的・間接的その他すべての損害について、医師は責任を負わない</p>
オンライン診療補助の映像や音声等の保存	患者・医師ともに録音・録画は禁止する
いつでも同意の撤回が可能であること	<p>同意を撤回する時の連絡先： 大阪急性期・総合医療センター 副院長 林 晃正 住所 大阪市住吉区万代東 3-1-56 電話 06-6692-1201(代表)</p>



オンライン診療補助同意書

地方独立行政法人大阪府立病院機構

大阪急性期・総合医療センター

総長 嶋津岳士 殿

私は、上記の「オンライン診療補助の実施にかかる診療計画書」に関する説明を受け、内容を理解し了解しましたので、診療計画と注意事項に従い、オンライン診療補助を受診することに同意します。

(各項目の確認後、□にチェックして下さい)

- オンライン診療補助の基本的考え方
- 疾患名および期間
- オンライン診療補助と対面診療の組み合わせに関する事項
- 予約の方法・診療時間に関する事項
- オンライン診療補助の方法・使用する機器
- オンライン診療補助が実施できない条件
- 患者の情報伝達への協力
- 急変時の対応方針
- 情報漏洩等のリスクを踏まえたセキュリティに関する責任
- オンライン診療補助の映像や音声等の録音・録画の禁止
- 同意の撤回ができること

説明者署名

年 月 日

かかりつけ医

\_\_\_\_\_

年 月 日

大阪急性期・総合医療センター 医師

\_\_\_\_\_

本人署名

年 月 日

\_\_\_\_\_ 代諾者署名 \_\_\_\_\_ (続柄: \_\_\_\_\_ )

大阪急性期・総合医療センター 記入欄 カルテ No. \_\_\_\_\_